

第28期東京都立図書館協議会（平成28～29年度）
「これからの都立図書館に必要な利用環境について
－多様な学びや活動を支える機能－」（提言）

概要

第28期提言は、第27期提言「世界都市・東京を支える情報センターを目指して」を更に展開する形で、「利用環境のあり方」を焦点に、「多様な学習形態や利用スタイルに応じた利用環境」「誰もが快適に利用できる環境」の2つの視点で整理し、同時に、利用環境に関わる「サービス」「広報」のあり方についても検討を行い、提言を示した。

1 多様な学習形態や利用スタイルに応じた利用環境

（1）情報資源を快適に利用するための環境の整備

多様かつ充実した利用環境の整備として、外部の意見を参考にした居心地の良い空間づくりや各階及び館全体でのゾーニング及びコンセプトの明示が重要である。また、ICT利用環境の整備や施設の新設・更新の際の取組として、利用者が自由にアクセスできる情報資源の最大化も必要である。

（2）「学ぶ」「調べる」を支える環境の整備

社会に出てからも学び続ける、意欲ある学習者への支援として、都内公立図書館と連携した図書館サービスの広報、ニーズに即した情報提供及び調査研究支援を行っていく必要がある。また、児童・生徒の学びの支援として、積極的な校外学習の受入れや新たなプログラムの開発が期待される。

（3）知的刺激、人と人が出会える場の整備

企画展示及び展示と連動した活動等について、より一層の広報が重要である。また、施設変更後は、入口付近に広くスペースを取った展示コーナーを設置し、入館への動機付けとすると共に、気軽に展示を見られるようにする等の工夫も考えられる。更に、図書館で人と人がつながり、新たな知的活動や知的刺激に出会える場として、参加者同士、参加者と講師の交流等、双方向的な学習形態の要素を含んだイベントを実施する。

2 誰もが快適に利用できる環境

（1）非来館型サービスの充実

都立図書館の所蔵する情報資源の活用促進のため、ディスカバリーサービスを一層推進していく。

非来館型サービスの仕組みづくりとして、相対的に環境整備が不十分な都内公立図書館等へのオンラインデータベース導入支援、電子書籍の利用体制の整備、バーチャルレファレンスの充実などの検討が望まれる。また都立図書館のサービスや魅力が容易に伝わるウェブデザインの構築も求められる。

(2) 外国人に向けたサービスの推進

東京で暮らす外国人、東京を訪れる外国人それぞれに対応した環境整備や他図書館との連携を展開していく必要がある。また、大使館との連携強化も求められる。

(3) 潜在的利用者へのアプローチ

都立図書館の利用を促進するために、身近な図書館を利用しているが都立図書館を利用しない、あるいは存在を知らない都民に直接アプローチする取組を行うと同時に、既に都立図書館の存在、サービス、保有する情報資源を知っており、「伝える」ことのできる関係者等へのアプローチを行うことが有効である。また、近隣住民等の利用促進も併せて行っていく。

デジタルアーカイブの活用促進にも引き続き努める。